

奈良に都がおかれたのは710年のことです。それから1300年近くの時が流れた1998年の12月、京都で開かれた第22回世界遺産委員会で、『古都奈良の文化財』の世界遺産リストへの登録が決定しました。

## 古都奈良の文化財

「古都奈良の文化財」は、次のような8つの資産で構成されています。

- 国宝建造物があり、敷地が史跡に指定されている
  - 東大寺・興福寺・春日大社・元興寺・薬師寺・唐招提寺—
- 特別史跡・特別天然記念物に指定されている
  - 平城宮跡・春日山原始林—

世界遺産リストへの登録にあたっては、各資産が個別に評価されたものではありません。8資産全体で物語っている奈良の歴史や文化の特質が評価されました。「古都奈良の文化財」という名称で、全体がひとつの文化遺産として登録されていることが、それをよく表しています。8つの資産は奈良のまち全体の代表なのです。

## 世界遺産としての評価 —なぜ世界遺産になったのか?—

- **遺産の価値** —「顕著で普遍的な価値」が十分にあるか—  
文化遺産の6つの価値基準のうち、②③④⑥の4つにあてはまる事が認められました。
  - ②—芸術や技術の発展をもたらした重要な文化交流を示すもの—  
中国や朝鮮との交流によって日本の文化が大きく発展したことを示しています。
  - ③—ある文化や文明の極めて貴重な証拠—  
古代の日本の首都に開花した文化を伝えるきわめて貴重な証拠です。
  - ④—人類の歴史の上で重要な時代を物語る優れた実例—  
日本の国家や文化の基礎が整った重要な時代である奈良時代の様子を伝えています。
  - ⑥—普遍的な意義のある事柄と密接な関連があるもの—  
神道や仏教など日本人の信仰と密接な関係があり、年中行事などを通じて市民の暮らしの中に生き続けています。

**他の同種の遺産との比較検討**  
日本を含む東アジアの古代の都のうち、宮殿の遺跡と都に計画的に建設された木造建造物群とによって当時の姿を伝えていた例は、他にありません。建造物群と自然の山や森とが一体となった文化的景観がまもられていることも大きな特徴です。

- 平安京(京都市)との比較  
古代の平安宮の跡は、都市化が進みあまりよく残っていません。当時京内に建てられた建物も、全く残っていません。当時の平安京の様子を伝えるものは、戦乱や都市の変遷とともに多くが失われてしまいました。同じように古都とよばれる奈良と京都ですが、その性質は違って同じではないのです。

「古都奈良の文化財」の世界遺産リストへの登録は、奈良を舞台に繰り返られてきた人間のいとなみと、それを未来に活かしていこうとする奈良市民はじめ日本国民の決意とが、世界の人々から認められたものといえるでしょう。

# 世界遺産 古都奈良の文化財の概要

日本の社会 = 文化の基礎は、中国や朝鮮に学びながら奈良時代に平城京でつくられました。現代の日本も、まぎれもなくその延長線上にあります。

**周辺環境の保護**  
遺産の周辺には、環境や景観を保全して遺産を重層的にまもるために、一定の利用制限がなされる区域を設けることが求められます。

「古都奈良の文化財」では、次の2種類の区域が設けられています。**緩衝地帯(バッファゾーン)**  
遺産の周辺環境を直接保護するための区域  
春日山地区・平城宮跡地区・西ノ京地区の3か所に設けられています。

**歴史的環境調整区域(ハーモニーゾーン)**  
環境保全と都市開発との調和を図るための区域  
8資産の一体的保全のため各緩衝地帯の間に設けられています。

- 区域の設定について  
奈良は多くの人に愛されています。その愛すべき奈良のまちの健全な発展を図るため、従来から都市計画に一定のルールが定められてきました。
  - 歴史的風土特別保存地区 [古都保存法]
  - 風致地区 [奈良市風致地区条例]
  - 都市景観形成地区 [なら・まほろば景観まちづくり条例]など、既存の地域地区の中から8資産の保全のために必要な範囲が、緩衝地帯および歴史的環境調整区域として評価されました。世界遺産登録のために新たな規制が設けられたわけではありません。



奈良市

# 世界遺産 古都奈良の文化財

- 東大寺 ● 興福寺 ● 春日大社 ● 春日山原始林
- 元興寺 ● 薬師寺 ● 唐招提寺 ● 平城宮跡



## WORLD HERITAGE Historic Monuments of Ancient NARA

写真 宮内庁正倉院事務所 奈良文化財研究所 矢野建彦 [表紙文様(正倉院宝物鏡尺部分)・正倉院正倉] [平城宮跡 東の大極殿発掘遺構] [上記以外]

# 世界遺産とは

私たちの住む星-地球は、すばらしい自然をはぐくんできました。人類は、そこにさまざまな文化をいとなんできました。

文化遺産や自然遺産が問いかけているもの—それは私たち人間の存在そのものにほかなりません。そこに人類共通の普遍的な価値を見つけることができます。

## 世界遺産条約の概要

—世界各地の文化遺産・自然遺産を人類全体の財産として各国が協力して守っていく—  
そのしくみを定めた条約が、1972年の第17回ユネスコ総会で採択されました。「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」、すなわち「世界遺産条約」です。 2015年7月現在の締約国数 191か国

## 文化遺産と自然遺産

この条約は、「顕著で普遍的な価値」のある以下のような文化遺産・自然遺産を対象としています。

文化遺産	自然遺産
記念工物群・monuments 建造物群・groups of buildings 遺跡・sites—文化的景観を含みます—	地学的に重要な地域 生物学的に重要な地域 自然の美しい風景地

文化的景観とは、文化的景観—cultural landscapes—とは、「自然と人間の共同作品」とされています。具体的には、庭園や田園風景、あるいは信仰の対象となった自然景観などです。人間の関わり方は様々ですが、「文化的」なもの=文化遺産として扱われます。

## 世界の遺産の保護のしくみ

- 世界の遺産を保護するためのしくみは、国内レベルでの取り組み、国際レベルでの取り組み、の2つに大きく分けられます。

国内的保護	国際的援助
各国は国内の遺産を人類の遺産として保護する責任があります。 日本では、文化遺産は文化財保護法、自然遺産は自然環境保全法、自然公園法、森林法によって保護されています。	自国の力だけでは遺産の十分な保護が困難な国を国際社会全体で支援します。 日本も様々な形で国際的援助に参加しています。

- 国際的援助を実施するため、条約に基づいて世界遺産委員会と世界遺産基金が設立されています。

世界遺産委員会	世界遺産基金
締約国からの要請に対し、どこにどのような援助を行うかを決定します。 21か国で構成されています。	援助の資金です。 締約国の分担金や任意の拠出金、その他の国・団体・個人からの寄付などを財源としています。

- 世界遺産委員会は、世界のさまざまな自然や文化を代表する遺産のリスト—世界遺産リスト—を作成しています。

**世界遺産リスト**  
一般に「世界遺産」とよばれているのは、このリストに登録された遺産のことです。それらの遺産の保護を共通のテーマとして、具体的な取り組みが進められます。

## 世界遺産リストの作成

- 登録の手順
  - 各締約国による 暫定リストの提出  
各締約国が暫定リストを世界遺産委員会に提出します。(暫定リストへ各締約国が今後5~10年ほどの間に推薦しようとしている国内の遺産のリスト)
  - 各締約国による 推薦  
各締約国は暫定リストに基づいて国内の遺産を世界遺産委員会に推薦します。
  - 専門家団体による 評価  
専門家の国際NGO団体が客観的に評価します。
  - 世界遺産委員会による 審査・決定  
世界遺産委員会が評価結果にしたがって審査し、登録の可否を決定します。

- 登録基準  
推薦された遺産は、**遺産の価値**—「顕著で普遍的な価値」が十分にあるか—**保護状況**—適切に保護されているか—などについて、**他の同種の遺産と比較検討**しながら審査されます。

「顕著で普遍的な価値」についての基準は文化遺産、自然遺産それぞれに定められています。文化遺産の基準は以下のとおりです(抄訳)。

- ① 人間の天才的創造力が生み出した優れた作品
- ② 芸術や技術の発展をもたらした重要な文化交流を示すもの
- ③ ある文化や文明の極めて貴重な証拠
- ④ 人類の歴史の上で重要な時代を物語る優れた実例
- ⑤ ある文化の伝統的集落などの代表例で、存続が危ういもの
- ⑥ 普遍的な意義のある事柄と密接な関連があるもの

このうちの1つ以上該当していること、その文化遺産が本物であることが、証明されなければなりません。

登録件数	2015年7月現在
文化遺産	802
自然遺産	197
複合遺産	32
総計	1031件

複合遺産とは  
文化遺産としても自然遺産としても基準にあてはまる認められた遺産を、「複合遺産」とよんでいます。  
例)オーストラリアの巨大な一枚岩(→自然)エアーズロックは、原住民の聖地(→文化)でもあります。(登録名称は「ウルル-カタジュタ国立公園」)

- 危機にさらされている世界遺産リスト  
世界遺産リストに登録されている遺産のうち、深刻な危機に直面している遺産は、「危機にさらされている世界遺産リスト」に登録され、状況を改善するために重点的な取り組みがなされます。

世界遺産条約は、世界の遺産の保護のための具体的なしくみをつくりました。しかしそれは決して完全なものではありません。人類全体の遺産とは何か?それをどのようにして保護していけばよいのか?条約は様々な遺産の保護のあり方について考えるひとつのきっかけとなっています。



# ならのあゆみと 古都奈良の文化財

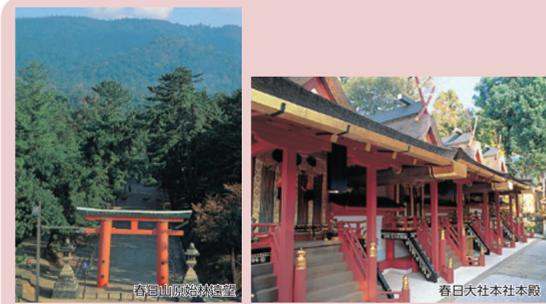
## 寺社のまち

都が京都へ移ると、平城京の大部分は水田になってしまいます。しかし奈良の都市生命が絶たれてしまうことはありませんでした。寺社が残されたからです。奈良は、寺社の町として新しい歴史を歩み始めます。

興福寺や東大寺は大きな勢力をもち続けることができました。その周りには、寺の仕事で生計を立てる人たちの住み町ができます。それがやがて今日の奈良市の旧市街に引き継がれることとなります。

## 2度の大仏再建と奈良のにぎわい

源平の内乱が起こると、興福寺は反平氏の立場をとりました。平氏との戦いで、興福寺は東大寺とともに焼失してしまいます。しかし、両寺ともみごとに再建されます。衰退していた他の寺院もこれに刺激を受けて活力を取り戻し、建物の修理や再建が盛んに行われました。戦国時代の争いによって、大仏殿は再び焼失します。再建されたのは、江戸時代になってからでした。そのころには、平和が続いて経済も発展し、庶民も旅ができるようになっていました。大仏殿が完成すると奈良は多くの見物人のにぎわいます。奈良は観光の町としての性格をもつようになります。



春日山原始林(若草山頂上) 春日大社本社本殿

●春日大社と春日山原始林は、社殿と自然が一体となった文化的景観とされています。  
●春日山の森は、自然の中に神の存在を感じる日本人の伝統的な自然観にたがって、春日大社の聖域として守られてきました。そこに、人間との関わりが認められます。  
●春日山原始林は「都市に隣接する原始林」としばしば言われますが、このことから人との関わりが少なくないことがわかります。

## ならのみやこ、平城京

古代の日本人は、中国や朝鮮から熱心に学びました。やがて律令政治のしくみを整え、首都平城京がつけられます。国家は仏教を保護し、たくさんの寺院が建立されました。こうして日本人は、奈良に天平文化の花を咲かせたのです。

## 平城京のすがた

平城京は碁盤目状に整然と区画され、宮殿(平城宮)・寺院・市場・貴族や庶民の住宅などが次々に建設されました。人口10万人の大都市だったと推定されています。

- 平城宮は、天皇の住まいであると同時に、多くの役人が働く政治・行政の中心地でもありました。
- 藤原京や飛鳥から移ってきた薬師寺・元興寺・興福寺は、国家によって新たに建立されました。さらに聖武天皇は大仏造立を発願し、東大寺を建立します。唐僧鑑真は唐招提寺を創建しました。
- 古くから神聖視されていた御蓋山のふもとには、春日大社が創立されました。春日山も春日大社の神山として保護されることとなります。

## 世界遺産が生きるまち、奈良

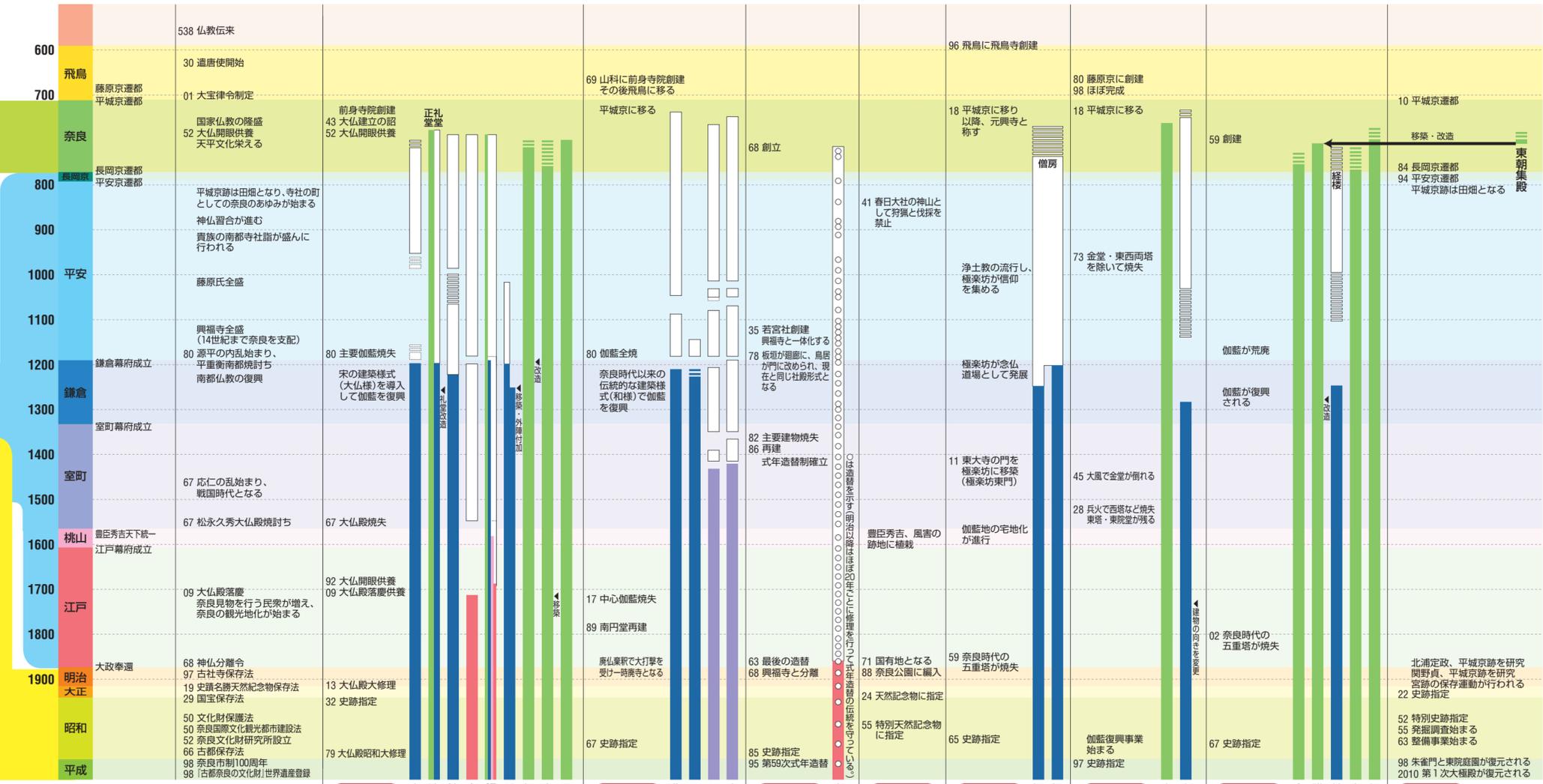
奈良時代から現代まで、これほど長い間都市として生き続けているまちは、日本には他にありません。そして1998年、奈良市は市制100周年を迎えました。

この100年で世の中は大きく変化しましたが、奈良らしさを守る努力も続けられてきました。世界遺産への登録は、多くの人たちの努力の成果でもあります。これから多くの困難が待ち受けていることでしょう。しかし私たち奈良市民は、世界遺産登録を通じて、古都としての奈良のまちを将来も大切にしていける決意を、全世界の人々に表明しました。

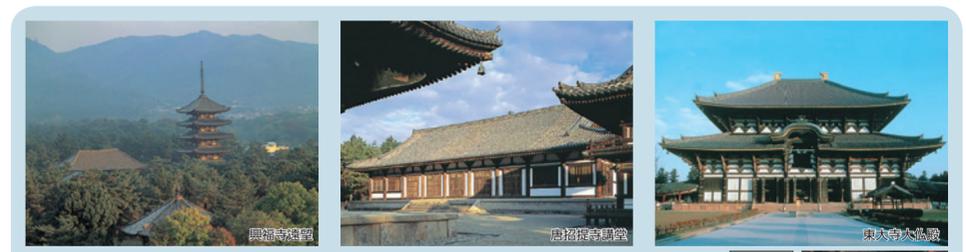
- 平城宮の遺跡は、発掘調査が終わると、崩れないように再び埋めもどして保存されるため、遺跡そのものを見ることはできません。
- そこで、いろいろな方法で、地下にどのような遺跡があるのかを地上に表示しています。例えば、柱のあった位置に木を植えたり、基礎を復元したりしています。
- 実際に建物全体の復元を試みるのもその一つで、朱雀門もその例です。
- 奈良時代の遺跡としての価値をもっているのは、あくまで、地下に眠る本物の遺跡です。



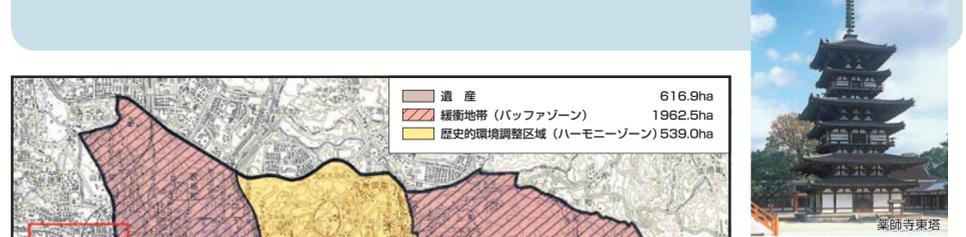
平城宮跡 東の大仏殿



正倉院正倉 興福寺北円堂 春日大社本社本殿 春日山原始林(若草山頂上) 元興寺極楽坊本堂 薬師寺遺蹟 唐招提寺金堂 平城宮跡 東の大仏殿発掘遺構



●世界遺産条約は、地球上の「場所」を保護しようとする条約です。建物も、土地から切り離して考えるのではなく、それが建っている「場所」全体を保護するという考えです。  
●例えば、寺院の建物は寺院の境内になければ、その本来の姿は正しく伝わりません。野生生物も、植物園や動物園ではなく、自然の生態系の中で保護していこうとしています。  
●他の場所へ移すことのできる美術品や、無形の文化財などは、この条約の直接の対象にはなりません。しかし、仏堂には仏像があってこそ、そして信の場であってこそ、本来の姿であることはいまでもありません。



「遺産」と訳された「heritage」という単語には「代々継承」(トランスマット) という意味が含まれています。先人たちが残したものを、未来へ残せばよいのではありませんか? 何をどのようについでに、春らしの中に活かしていくか? heritageとして未来へ伝えていくか? それを考えるのは現代の私たちの責任です。

## 奈良は美しいところだ。自然が美しく、残っている建築も美しい。そして二つが互いにとけあっている点は、他に比をみない

これは、かつて奈良に暮らした作家の志賀直哉のことばです。このようなすばらしい環境を大切にすることは、世界の人々に対する責任を果たすことであると同時に、何よりも、奈良に暮らす私たち自身の幸せを約束するものではないでしょうか。

自然や環境を守ること、文化財を守ること、なにも特別なことではありません。身のまわりの生活環境や人、ものを大切にするところから、いや、その前に、自分自身を大切にすることから、すべてがはじまるのだと思います。